

共生社会の構築とアクセシビリティ

～愛媛大学の障がい学生支援～

平成29年度 3年2組(31) 梶田実沙
指導 教育学部特別支援教育講座 山下光

はじめに

日本は平成26年1月に「障害者の権利に関する条約」を批准し、障がい者等が積極的に参加・貢献していくことができる共生社会の形成をめざすことを表明している。この条約では、障がいのある者と障がいのない者がともに学ぶ仕組みであるインクルーシブ教育システムを構築することが求められている。

日本が目指す共生社会

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を認め合える全員参加型の社会である（文部科学省）。

今回の研究の目的

インクルーシブ教育を日本でどのように実現していくのかについては現在も議論が続いている。この研究では、高等教育における日本の現状と取り組みを、愛媛大学を中心に調査し、それをもとにインクルーシブ教育システムの在るべき姿を考える。

インクルーシブ教育

インクルーシブとは、「含んだ、包括的な」という意味。障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行う教育のこと。個人に必要な合理的配慮が提供されることが必要とされている。

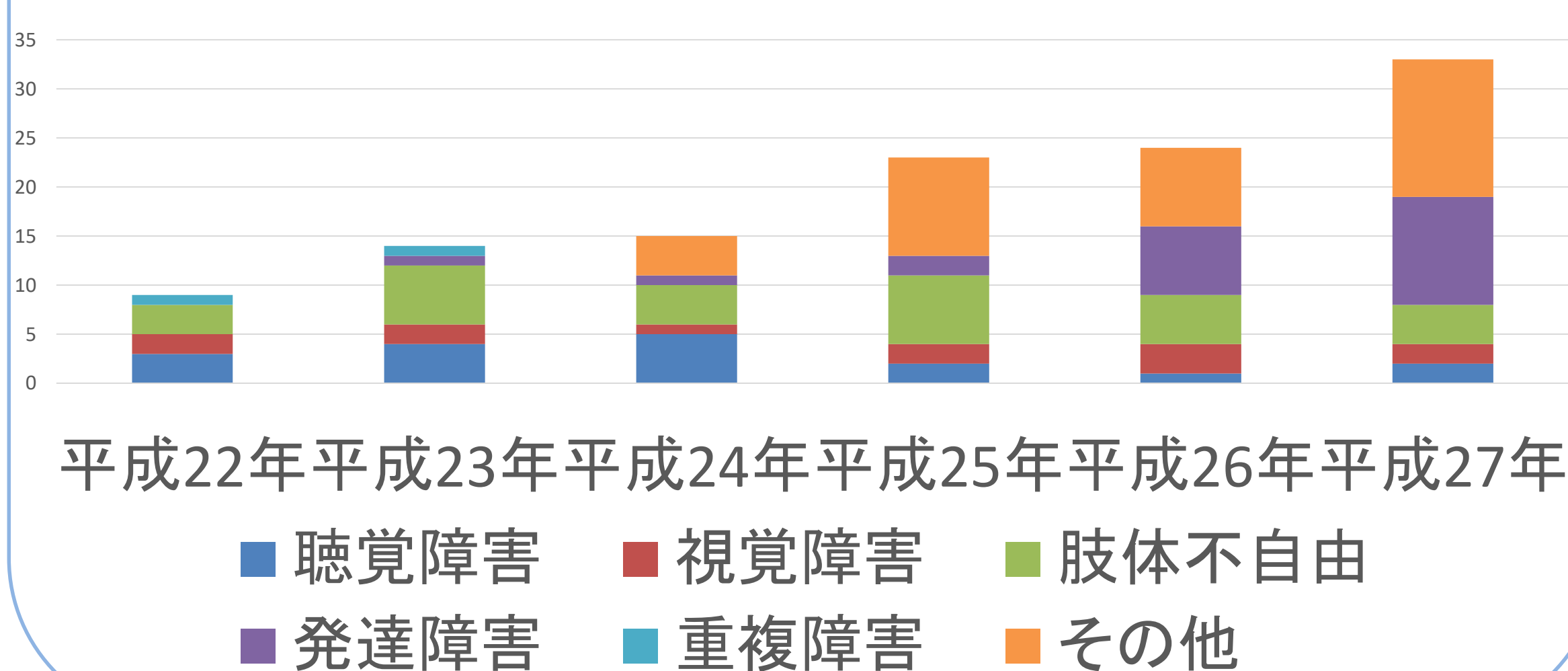
愛媛大学バリアフリー推進室

学生支援部学生支援課の組織の一つ。ノートテイク、パソコンノートテイク、手話通訳、代筆、生活支援、講義等で使用する映像資料への字幕入れ等、特別な配慮が必要な学生への支援のコーディネートを行っている。

障がい学生支援ボランティア（CBP）

「愛媛大学の学生が障がいの有無にかかわらず、よりよい大学生活を送るため、障がい学生支援を充実させる」ことを目的に設立された学生ボランティア団体。バリアフリー推進室と連携し、実際の支援の主体となっている。支援学生の募集、広報、環境調査等も行っている。

愛媛大学 特別な配慮が必要な学生数
(平成27年6月 現在)



一人一人のアクセシビリティ

アクセシビリティとは、近づきやすさやアクセスのしやすさのことであり、到達容易度という意味。共生社会の形成のために、例えば教育現場で、授業で扱われている情報に、すべての児童・生徒が容易にアクセスできるかなど、障がいのある人にも合理的配慮がなされているかどうか、今一度見直すことが必要である。

学生と大学の連携による支援

愛媛大学の障がい学生支援は、ノートテイクや手話など、同級生らの自主的な情報補償から始まったが、より組織的な支援の必要性からバリアフリー推進室が設置された。現在は、推進室を中心に障がい学生、支援学生と支援に関係する職員、教員、組織との連携によって支援が行われている。

まとめ

共生社会の実現のためには、インクルーシブ教育を国内でどう行うのかが重要である。愛媛大学のバリアフリー推進室を尋ね、実際の支援の現場や現状を目で見て、課題を知ることができた。今後は、共生社会やインクルーシブ教育の実現のために、アクセシビリティという新しい社会参加の視点を浸透させ、社会の構成員である私たちが連携を深めていくことが必要だと考えた。

謝辞

ご指導いただいた愛媛大学教育学部の山下光先生、附属高校の川中先生、バリアフリー推進室の皆様にご感謝いたします。

バリアフリー推進室
マスコットキャラクター
はぐ太郎

